



スモールステップ



2月号

児童期・青年期のライフステージ

支援部担当主幹 松山 かをり

健康づくりに対する課題やライフスタイルは、年齢層によって異なります。今号は、児童・生徒のライフステージの課題と対応について御説明してみたいと思います。

①「児童期」について

子供自身が能力に応じて学習する、地域での人間関係を広げる性を含めた身体の変化や状態を把握し、訴えるスキルや知識・技能を習得する放課後や余暇の過ごし方を学ぶ時期のことです。自らの身体機能の状態を理解する（障害認識の初歩）。サービスを利用したり選択したりする練習をする（ガイドヘルプの利用、宿泊体験など）。

②「児童期」家族や支援者にとって必要なこと

子供の自我は将来の自立（支援を受けながらの自立を含む）のためにも重要です。自我の芽を摘み取らないようにかかわっていくことが大切になります。また児童期には、他の人と比較されることによって自信を無くしてしまうことや、周囲から要求されることに応えられなかったという体験で「ダメな自分」と思ってしまう場合があります（自己否定）。「あなたはあなたであっていい」「あなたには価値がある」といったメッセージを一人一人の状況に合わせた方法を用いて、親や支援者が伝え続けていくことで自己肯定感をもてるよう育てることがとても重要です。

①「青年期」について

大人としてのアイデンティティを構築する時期のことです（中学部段階）。親離れするための生活スキルを習得し、サービスの利用（ガイドヘルプ、ホームヘルプ、グループホーム体験など）、就労や余暇、政治等を通じた社会参加スキルを習得し、生涯学習の機会を得ることや障害の自己認識をより深めることにつながります。

②「青年期・壮年期」の家族や支援者にとって大切なこと

児童・生徒本人が、自分らしい暮らしができることがとても大切です。本人と家族の好みは異なり、大人になったら家族の決定よりも本人が決定したことが優先されることが望ましいです。しかし、保護者や支援者が障害のある人に対して常に幼児と接するような感じで対応していると、「ずっとこのまま」の関係となり、本人は無力感を味わうことになり、自分の気持ちや考えや表現していることには意味がないのだと感じてしまうことになることが想定できます。その結果、投げやりになってしまう場合もあります。本人の意志をどのようにして汲み取り、日常生活や社会生活に反映させていくかを大切に、本人に対する支援をすることが重要なこととなります。